

中部産業遺産研究会 会報 第55号

Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage

新年あけましておめでとうございます。

本年もよろしくお願い致します。

目次

. 第126回定例研究会の開催について	1
. 第125回公開定例研究会の開催報告	1
. 2013年度 パネル展の開催報告	3
. 20周年記念事業 「創立20周年記念祝賀会」の開催報告	5
. 20周年記念事業 「創立20周年記念誌」の原稿募集	6
. 「ものづくり文化再発見！ウォーキング」の開催報告	8
. シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第32回の開催について	8
. 『産業遺産研究』21号について - 緊急のお知らせ -	5
. 短信 野田味噌商店（豊田市榭塚西町）の横置多管式煙管ボイラーと 醸造工場見学	天野武弘 8
. お知らせ	10

. 第126回定例研究会の開催について

日時：2014年1月26日(日)、午後1時より

場所：名城大学名駅サテライト多目的室

1. 研究報告、調査報告

報告「工具論」 石田正治（予定）

報告「三河の木造船づくりの技術」 天野武弘（予定）

報告「熱田運河について」 近藤是（予定）

2. その他の諸報告、保存問題など

3. 研究誌、会報(研究会ニュースレター)

4. シンポジウム

5. その他

. 第125回公開定例研究会の開催報告

日時：2013年11月24日(日)、午後1時より、場所：名古屋都市センター11F ホール

第1部 13:00～16:00 司会（朝井佐智子）、記録（藤田秀紀）

講演会「近代名古屋の発展と海外との関わり ～戦前の国際都市名古屋の形成～」

参加人員 73名

特別講演「近代都市と東アジアの関わり」

講師 高木傭太郎 氏（愛知東邦大学 非常勤講師）

報告「海外との関わりから見た近代名古屋のまちづくり、ものづくり」30分

浅野伸一（中部産業遺産研究会会員）

報告「ドイツ人俘虜、産業と文化面で貢献」30分

校條善夫（中部産業遺産研究会会員）

第2部 16:00～17:00 司会（市野清志）記録（藤田秀紀）

第125回 公開定例研究会

参加人員 36名

新会員紹介 なし

1. 研究報告、調査報告

[125-11-01] 報告「工業系の夜学校の歴史点描」 佐々木 享

8/4 説明の補足。定時制を独立した課程として認める。教職員の配置。定時制高校の分校としてスタート。前後は独立した夜学として発足。

・甲種相当の資格、昼間中学に並列。徴兵延期、官の採用試験の受験資格。1948年頃の制度。

2. その他の諸報告、保存問題など

[125-21-01] 「創立20周年記念誌について」 佐々木 享

現在60名超の参加申込有。記念誌は当初来年5月の総会・定例会に発行予定であったが、7月の定例会に発行と変更する。編集には朝井氏と国立氏を追加する。

3. 研究誌、会報(研究会ニュースレター)

[125-31-01] 研究誌『産業遺産研究第21号』について 天野武弘

『産業遺産研究』執筆要綱について、改訂が編集委員会より提出され一部変更があった。改訂版の『産業遺産研究』執筆要綱は、別紙に掲載した。

[125-31-02] 会報ニュースレター 電子メール版の原稿募集について 橋本英樹

4. シンポジウム

[125-41-01] シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第32回について 山田 貢

5. 見学会、その他の催し物

[125-51-01] 2013年度「ものづくり文化再発見！ウォーキング」報告 柳田哲雄

秋 コース：名古屋港近代産業遺産と海（街）道を巡るリニア・鉄道館

実施日：平成25年11月16日(土)

コースの概略：名古屋港ふじの広場 奥田助七郎の胸像 築地灯台 名港火力発電所跡
名古屋野鳥館 稲永ビクターセンター リニア・鉄道館

[125-51-02] 「2013年 パネル展」について 大橋公雄

1. 2013/11/19(火)～12/01(日) 名古屋都市センター11F まちづくり広場・企画展示コーナー

2. 2013/11/24(日) 13:00～17:00 講演会・公開研究会 名古屋都市センター11F 大研修室

[125-51-03] 「定例研究会で見方調べ方や調査研究報告予定及び見学希望の用紙記入のお願い」

大橋公雄

6. 文献紹介、資料紹介

[125-62-01] 「2013年度全国大会 研究発表講演予稿集」産業考古学会（事務局）

【その他の資料】

[125-63-01] 「ニュースレター vol.96」名古屋都市センター（事務局）

[125-63-02] 「ニュースレター vol.97」名古屋都市センター（事務局）

[125-63-03] 「産業技術記念館 館報 赤れんが Vol.63」産業技術記念館（天野武弘）

7. 出版広報事業

[125-71-01] インターネット <http://csih.sakura.ne.jp/> 左記です。一度ご覧下さい。

8. 委員会、役員会、研究分科会

[125-81-01] 幹事会・役員会

・第2回 幹事会 2013/12/15(日) 10:00～12:30 名城大学名駅サテライト ディスカッションルーム1

1. 規約改正について

2. 公益財団法人 愛銀教育文化財団の教育文化活動に対する助成申請について

3. 名古屋市の文化関係自費出版に助成について

4、シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第32回について

[125-81-02] シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第32回 実行委員会

・第3回 2013/11/24(日) 10:00～12:00 名古屋都市センター11F 交流サロン

・第4回 2014/01/26(日) 10:00～12:00 名城大学名駅サテライト 多目的室(予定)

[125-81-03] 第9回「2013年度 パネル展・近代名古屋と海外との関わり
～戦前の国際都市名古屋～」勉強会

・第5回 2013/10/09(日) 14:00～16:30 名古屋都市センター13F

[125-81-04] 研究誌『産業遺産研究第21号』編集委員会

・第1回 2013/10/25(土) 10:00～12:45 名城大学名駅サテライト ディスカッションルーム

・必要に応じて電子メールや電話にて開催

[125-81-05] 創立20周年記念事業 実行委員会

・第3回 2013/11/17(日) 13:00～16:00 名東スポーツセンター

・第4回 2013/12/15(日) 13:30～16:00 名城大学名駅サテライト ディスカッションルーム

9. 総務・事務局関係

[125-91-01] 研究会スケジュール、関連団体スケジュール、他

・第126回例会 2014/01/26(日) 13:00～ 名城大学名駅サテライト 多目的室

・シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第32回

2014/03/23(日) 13:00～ 名城大学名駅サテライト 多目的室

・第127回例会 2014/03/23(日) 16:00～ 名城大学名駅サテライト 多目的室

・第22回総会・第128回例会 2014/05/25(日) 13:00～ 未定

16:50 終了

[懇親会] 17:20～ 中華料理豫園 金山店 会費3,000円 (近藤・野口)

・2013年度 パネル展の開催報告

報告：井土清司

「近代名古屋の発展と海外との関わり ～戦前の国際都市名古屋の形成～」Part

今回で9回目となる2013年度パネル展「近代名古屋の発展と海外との関わり ～戦前の国際都市名古屋の形成～」は、(公財)名古屋まちづくり公社・名古屋都市センターとの共催と、名古屋市、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋商工会議所の後援を得て、2013年11月24日(火)から12月1日(日)まで、名古屋都市センター11階まちづくり広場・企画展示コーナーにおいて行った。

テーマは「近代名古屋の発展と海外との関わり ～戦前の国際都市名古屋の形成～」である。さらに、今回のパネル展に関連する講演会を期間中の11月24日(日)に同センターのまちづくり広場11階ホールに於いて、特別講演「近代都市と東アジアの関わり」と題し、講師 高木 傭太郎氏(愛知東邦大学 非常勤講師)を迎えて開催した。講演会に引き続いて、当研究会の定例研究会を一般に公開して行った。

今回のテーマである「近代名古屋の発展と海外との関わり ～戦前の国際都市名古屋の形成～」は、名古屋の発展と海外との関わりを 街づくりと名古屋の国際化、ものづくりと名古屋の国際化、海外との交流、に区分して36枚のパネルで紹介した。

展示したパネルの題名は次のとおりです。

街づくりと名古屋の国際化

明遣臣の張振甫と錠薬師堂、大須門前に「エレキテル」来る 名古屋を通った朝鮮通信使たち、名古屋城下碁盤割りを巨像が通った 攘夷派藩士が襲った紅葉屋事件、近代七宝を完成させた梶常



写真1 パネル展会場

吉 ウィーンの万博に出品された名古屋城金鯨 欧米で評価された尾張七宝 シーボルトに学んだ伊藤圭介 尾張藩出身の洋学者 宇都宮三郎 名古屋県洋学校の外国人教師たち 名古屋の学校創設に貢献した外国人宣教師たち 戦前(昭和12年)名古屋が最も輝いた時(1) 戦前(昭和12年)名古屋が最も輝いた時(2) ろせった丸 名古屋港開港に導く

ものづくりと名古屋の国際化

豊田紡織株式会社の設立と上海進出、「豊田・ブラッド協定」の締結 昭和10年前後の名古屋市東区陶磁器産業 名古屋港から輸出されたノベルティ 電気製鋼技術の移転 ドイツ兵俘虜が産業と文化への貢献 名古屋の産業界近代技術・技能の伝授 繊維織物の染色技術の伝授 金鍍金技術の導入 ドイツ人俘虜の文化活動への貢献 ドイツ人俘虜のスポーツ活動への貢献 海外技術の模倣から始まった蒸気機関車製造 セルボレー式蒸気動車の導入 名古屋の近代上下水道を導いたバルトン 海外で評価された鈴木バイオリン

海外との交流

八高で学んだ中国人作家郁達夫 沈淪に書かれた名古屋 郁達夫が学んだ第八高等学校 伊藤次郎左衛門拓民と揚輝荘 伊藤次郎左衛門拓民と留学生 日中の架け橋 東亜同文書院から愛知大学へ(1) 日中の架け橋 東亜同文書院のコレクション(2) 日中の架け橋 孫文を支援した山田純三郎(3) 南京から贈られた千手観音と幻の日華寺 二重国籍者の野口米次郎

当研究会員と名古屋都市センターの担当者は、5回の勉強会、打合せ会を開き、意見・情報交換を行いパネル作成に当たった。

特別講演では、高木備太郎氏(愛知東邦大学 非常勤講師)より、「近代都市と東アジアの関わり」と題し、名古屋はいかにして一地方城下町から六大都市になったか、他の大都市は、制度上から全国からヒトとモノが集まる場所であった、尾張藩下級武士の名古屋近代化への働き、松坂屋創業者伊藤祐民の活動、歴代名古屋市長の役割の研究の必要について資料に基づき、関西共進会と名古屋の近代化への関わり、吉田禄在、加藤重三郎、桂太郎、後藤新平、伊藤祐民などの国際化・近代化への関係について、講演をいただいた。



写真2

特別講演の高木備太郎氏

続いて、当研究会員から、次の2題の発表を行った。

「海外との関わりから見た近代名古屋のまちづくり、ものづくり」 浅野 伸一

「ドイツ人俘虜、産業と文化面で貢献」 校條 善夫

期間中の入場者数は、2,084人、講演会の参加者は、73人であった。

入場者からのアンケートに書かれた内容は、パネル展のパネルの項目の資料および図録などの資料の要望があった。来年のパート では、「文化・芸術・技術を台湾に移転」項目のパネルをとの意見があった。なお、入場者からは、よく勉強している、よく研究しているなどの意見をいただいた。また、今回は、複数の大学からパネル展見学、講演会へ参加をいただいたことは、当研究会の励みとなった。



写真3 講演会の様子

実施後の反省

来館された方からは、戦前の名古屋の様子を知りことでよかった。よく勉強されている。よく調査研究をされて資料が整っており見やすいなど、パネルとの好評を頂きました。今回は大学生が大勢来館された。パネルをノートに記録される様子がありパネル一覧資料を用意すれば良かったと思いました。

パネル一覧資料や図録などが欲しいとの希望を寄せられました。パネル一覧資料についてはA3判での作成可能で検討して行きたい。図録については著作権と費用などの問題があり発行を課題としたい。

20周年記念事業 「創立20周年記念祝賀会」の開催報告

報告：創立20周年記念行事実行委員 岩井章真

工業高等学校の定時制教員らによる技術史教育の勉強会（定時制工業研究会 1971-1973）から始まった技術史への取り組みは、活動の範囲を広げながら改組を繰り返し、1993年5月の中部産業遺産研究会設立へとつながった。以来、中部地方をエリアとして産業遺産の調査研究、保存などに取り組んできた当会は、本年（2013年）で創立20周年を迎えた。当会ではそれを記念して、記念集会（後、記念祝賀会と改称）の開催と記念誌の発行を決定し、同年12月7日に記念祝賀会を開催した。本稿では、開催にかかる一連の報告を行う。

1、開催準備

2013年10月、会員（131名）と招待者（9名）に対し、往復ハガキにて記念祝賀会の案内状を送付した。案内文は佐々木実行委員長が著した。返信用ハガキには、返信者の多くから20周年の祝福や当会への感謝を綴るメッセージが寄せられた。

2、開催概要

記念祝賀会は、2013年12月7日（土曜日）の午前11時から午後3時まで、「ホテル ルブラ王山」（名古屋市千種区覚王山通8-18）地下1階「弥生の間」にて行われた。参加者は会員52名、招待者6名であった。参加者には「中部産業遺産研究会 創立20周年記念祝賀会」と題した栞（11頁）を配布した。栞の内容は、式次第、記念講演レジュメ（鈴木淳氏）「中部産業遺産研究会の小史」（佐々木実行委員長）出席者名簿からなった。記念祝賀会の記録は、集合写真やスナップの撮影とビデオ撮影により行った。

記念祝賀会では、開会挨拶を石田会長が行い、前史を中心とした当会の歩みを紹介した。つづいての鈴木淳氏（東京大学）による記念講演では、戦前から今日までつづく産業遺跡の史跡指定に係る経緯や背景などについて、また2013年に世界遺産へ推薦された富岡製糸場の保存や整備を巡る課題などについてお話があった。富岡製糸場では文化財保護法制により当初建物などが護られている一方、当初からのシステムではない機械や設備の保存には課題が多く、産業遺産への一層の理解が必要とのご指摘があった。後半の祝賀会は、佐々木実行委員長の挨拶から始まり、坪井顧問の乾杯を合図に会食となった。会食中、ご来賓の産業考古学会理事長 中川洋氏を始めとして、ご来賓、会員の多数からあたたかなご祝辞をいただいた。また権上かおる氏（アグネ技術センター）より花束の贈呈があったほか、複数の参加者からご祝儀などをいただいた。（ご祝儀は特別会計の収入として計上した。）本会の最後に野口事務局長が閉会の挨拶を行った。



写真4 鈴木淳氏による記念講演

後半の祝賀会は、佐々木実行委員長の挨拶から始まり、坪井顧問の乾杯を合図に会食となった。会食中、ご来賓の産業考古学会理事長 中川洋氏を始めとして、ご来賓、会員の多数からあたたかなご祝辞をいただいた。また権上かおる氏（アグネ技術センター）より花束の贈呈があったほか、複数の参加者からご祝儀などをいただいた。（ご祝儀は特別会計の収入として計上した。）本会の最後に野口事務局長が閉会の挨拶を行った。

3、プログラム

- 10時30分 受付開始
- 11時 開会挨拶（石田正治会長）
記念講演「産業遺産研究の到達点と課題
- 世界遺産推薦問題で見えて来たもの」
（講師 東京大学/鈴木 淳氏）
記念写真の撮影
- 12時30分 祝賀会開始
挨拶（佐々木享実行委員長）
乾杯（坪井珍彦顧問）

< 歓談 >

（来賓よりの祝辞）



写真5 佐々木享実行委員長による挨拶

産業考古学会理事長 中川 洋氏 (同学会長 伊東 孝 代読)
産業技術記念館副館長 成田年秀氏
アグネ技術センター 権上かおる氏 (石田会長へ花束贈呈)
産業考古学会顧問 玉川寛治氏
九州産業考古学会 市原猛志氏

< 歓談 >

13時30分 (研究会会員よりの祝辞)

赤崎まき子氏、天野博之氏、高橋伊佐夫氏、山田大隆氏、
斉藤和美氏、原田 喬氏、寺澤安正副会長

閉会挨拶 (野口事務局長)

15時 閉会

4、役割

開催準備は、創立20周年記念行事実行委員全員が行い、開催当日は各実行委員が以下の役割を果たした。朝井佐智子(受付・祝賀会司会)、天野武弘(記念講演司会)、大橋公雄(祝賀会司会・記録)、国立 篤(受付)、佐々木享(統括)、岩井章真(受付・記録)。また開催準備や運営で野口英一朗事務局長の協力を得た。



写真5 祝賀会の様子

20周年記念事業 「創立20周年記念誌」の原稿募集

「創立20周年記念誌」編集委員会委員長 佐々木 享

過日の12月7日には、中部産業遺産研究会創立20周年記念祝賀会を盛大に催すことができました。ありがとうございました。

さて、当会では創立20周年にあたって、下記目次案のように研究会の活動の歴史や到達点、課題などの内容を予定した「創立20周年記念誌」の発行を目指しております。

つきましては、下記目次案のうち、調査と保存例について、原稿を募集致します。執筆希望者はお執筆いただける事例を挙げ、2014年1月15日までに編集委員の天野武弘までご連絡をお願い致します。

原稿分量とフォーマット

一人1件とし、1編あたり原則として1~2頁

図表を含め1頁あたり2700字(1頁目は表題などがあるため約2100字)

原稿締め切り日

2014年4月末日

連絡先

住 所 〒442-0022 愛知県豊川市東光町2-127 天野武弘

電 話 0533-85-1504、携帯電話 090-1758-9601

FAX 0533-85-1010、電子メール amano-ta07@pro.odn.ne.jp

原稿執筆の詳細は執筆確定後にご連絡致します

目次案

はじめに 研究会会長、編集委員長

祝 辞

第1部 創立20周年記念祝賀会

・記念講演 鈴木淳「産業遺産研究の到達点と課題」

第2部 中部産業遺産研究会の20年

研究活動

- ・「中部産業遺産研究会の略史」 ・『産業遺産研究』の巻頭言から
- ・研究会誌『産業遺産研究』の編集（創刊号～第20号）
- ・シンポジウム「日本の技術史をみる眼」の開催（連続31回）
- ・シンポジウム「中部の電力のあゆみ」の開催（連続13回）
- ・「パネル展」の開催（連続9回） ・TICCIH中間会議2005
- ・夏の産業遺産見学会（1999～2008） ・「ものづくり文化再発見、ウォーキング大会」
- ・広報活動 ・中日新聞連載（愛知の産業遺産を歩く） ・出版活動
- ・産業遺産データベースの課題と展望 ・学術研究活動との連携
- ・中部産業遺産研究会の活動の現在
調査と保存例

* 産業遺産の調査、記録、保存、活用の事例について、教訓、課題、これまでの経緯、現状、展望などを含めて記述。調査依頼や保存要請なども含める

* 以下の事例について、研究会員を中心に個別に依頼および投稿希望者を募集

< 事例案 >

- ・官営愛知紡績所、三龍社旧製糸工場、明治用水旧頭首工、葭池樋門、県内の人造石遺構、渡辺織布工場、旧黄柳橋、産業技術記念館、明治村、ガラ紡工場とガラ紡績機保存、旧豊川電話中継所、装荷線輪轆、矢作製鉄などの調査、百々貯木場、稲生南防波堤、布里用水めがね橋、小野田セメント徳利窯ほかの調査依頼など
- ・庄内用水元入樋、蚕糸倉庫など
- ・初期のガラ紡調査、布里発電所水車ランナー、依佐美送信所など
- ・エルー式電気炉、矢作製鉄の電気高炉、送電鉄塔など
- ・八百津発電所、五六閘門、転車台（武豊、奥美濃）、岐阜の小水力発電、排水機など
- ・大宝排水機など ・鉄道遺産の調査と保存、那古野車庫、愛岐トンネルなど
- ・名古屋テレビ塔のアンテナなど ・カプトビール、地名発電所ほか煉瓦建物など
- ・大井川鉄道の保存、活用など ・常滑の窯と煉瓦煙突など ・岐阜の産業遺産ほか
- ・中部の電力遺産など ・東海の建築に関する産業遺産など ・静岡の産業遺産など
- ・大井川鉄道転車台調査、明治村の車両、転車台調査など ・のこぎり屋根調査ほか
- ・だるま窯ほか自治体における近代化遺産の取り組みからなど
- ・その他、機械・金属遺産、電気・情報・通信遺産、繊維遺産、醸造・食品遺産、鉄道遺産、自動車遺産、船舶・航空機遺産、窯業遺産、電気・ガス・水道遺産、木材・木製品遺産、土木遺産、建築遺産、三重県や長野県など地域の産業遺産など

第3部 中部産業遺産研究会創立前史

- ・めばえ 定時制工業高校教育研究会、愛知技術教育研究会（発足、性格、活動）
- ・トヨタ財団のコンクールの調査研究活動の展開 - 愛知の産業遺跡・遺物調査研究の成立へ -

第4部 産業遺産研究の思い出

- ・故人の思い出（研究会草創期の先覚者）
加藤博雄、飯塚一雄、藤村哲夫、近藤哲生
- ・「産業遺産研究への期待と課題」

第5部 資料

- ・歴代役員（前史の役員構成を含む）
- ・中部産業遺産研究会出版物（書名リスト）
- ・規約（最初のものとは現在のものを併記）

おわりに（編集後記）

< 付記 >

発行までの日程

執筆募集の締め切り 2014年1月15日

執筆者の確定 2014年1月18日（編集委員会にて）

原稿締め切り
発行予定

2014年4月末
2014年7月(第3日曜日予定)定例研究会

・「ものづくり文化再発見！ウォーキング」の開催報告

本年度秋コース：名古屋港近代産業遺産と海（街）道を巡るリニア・鉄道館

実施日：2013(平成25)年11月16日(土)

コースの概略：名古屋港ふじの広場 奥田助七郎の胸像 築地灯台 名港火力発電所跡
名古屋野鳥館 稲永ビジターセンター リニア・鉄道館 約9Km

参加者数：299名

説明場所と説明者：名古屋港 大橋公雄会員
築地灯台 井土清司会員
名港火力発電所 柳田哲雄会員

・シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第32回の開催について

テーマ：技術革新と技術史を学ぶこと

場所：名城大学名駅サテライト 多目的室

開催日：2014(平成26)年3月23日(日) 13:00～16:00

内容：講演 「技術革新と適正技術

- 戦後の鉄鋼技術革新と3・11を経験しての技術のあり方から考える - 」

講師 黒田光太郎 (名城大学大学院教授 中部産業遺産研究会)

講演 「20世紀の日本の化学技術 - 21世紀を展望する - 」

講師 亀山哲也 (産業技術総合研究所 名誉リサーチャー

・日本化学会化学遺産調査委員長)

当日のご参加をお願いします。詳しくは、チラシをご覧ください。

・『産業遺産研究』21号について - 緊急のお知らせ -

『産業遺産研究』編集委員会では、2013年11月に執筆要綱を改訂しましたので、執筆をご希望の会員は編集委員長の天野武弘まで(442-0022 愛知県豊川市東光町2-127、電話0533-85-1504)お申し出をお願い致します。なお、原稿締め切りは、論文が1月末日、調査報告と研究ノートは2月末日、その他の原稿は3月末日に変更になっていますので、早めにご連絡をお願い致します。」改訂版の『産業遺産研究』執筆要綱は、別紙に掲載しております。

・短信

野田味噌商店(豊田市榊塚西町)の横置多管式煙管ボイラーと醸造工場見学 天野武弘

<横置多管式煙管ボイラーの見学>

天野博之会員の紹介によって、榊塚味噌で知られる野田味噌商店(昭和3年現在地で創業)で使われ続けてきた、今では見ることにすら珍しくなった横置多管式煙管ボイラーが撤去されるのに合わせて、その最後の姿を見学する機会を設けていただいた。それはまた管轄する豊田労働基準監督署管内において、この種のボイラーでは稼働する最後ともいわれるものでもあった。そしてこれに合わせて同社の味噌造りの一端も見せて戴いた。

見学会は、2013年5月15日(水)午前10時に現地集合して行われた。参加者は会員をはじめ5名と少なかったが、野田清衛社長の会社概要を含めた丁寧な説明の後、まずはボイラーの見学に向かった。最近原料の大豆を蒸すときだけに用いられ、毎週月、水、金の3日間運転されていたが、ちょ

うどその日に合わせての見学でもあった。

目的のボイラーは木造土壁の一室に置かれていた。工場長による重油バーナによる点火や炎の調整作業をつぶさに見学した後、ボイラー室内に設置される足場にも乗せていただき、若干の熱気を感じながらも、普段は見ることのできないボイラー屋上の配管や蒸気抜きなどの設備にも間近に接することができた。

横置多管式煙管ボイラーは、胴回りを煉瓦で積み上げた方形状(同社では煉瓦壁面がほぼ全面鋼板で覆われていた)をしているが、ボイラー本体は円筒状の胴に多数の小煙管が組み込まれた独特な形状をしている。同社に保管されるボイラー明細表や図面によれば、胴の長さは4730mm、最大内径1500mm、板厚13mm、管ステーを含めた煙管数は44本、最大使用圧力8.5kg/cm²、伝熱面積67.3m²、製造者は愛知県内の半田市亀崎高根町の有限会社亀崎製罐工場、製造年月は昭和38年9月となっている。

野田社長によれば、最近の消防法の改正によって燃料となる重油タンクの全面改修を求められることになり、ボイラー自体を更新せざるを得なかった。50年近く故障なく使ってきたもので、まだ十分に使えるものであったので大変惜しい、毎年、正月に3日ほど、6月には1ヶ月ほどかけて、内部腐食を極力抑えるため設置当初より、甘藷を使って内部コーティングしてきたことを思い出す、といわれていたのが印象的であった。

なおその後、ボイラーは予定通り5月末に操業を停止し、間もなく隣接していた鉄筋コンクリート製の煙突とともに解体撤去された。同社では会社の発展と共に歩んできたボイラーを長く歴史に留める意を込め、正面の鏡板部分を切り取られたとのことである。再訪時にまたお目にかかることを楽しみにと思う。また煉瓦を覆っていた鋼板製の外板は設置業者(知立市の豊安工業株式会社)において保存が決まったとのことである。

< 醸造工場の見学 >

ボイラー見学後、味噌造りの工場内も見学させていただいた。榭塚味噌では創業時に始めた「委託加工」が同社の原点といわれ、それを今も継続と続けているとのこと。その様子を仕込倉の一角で見ることができた。木造黒壁造りの大きな仕込倉に座るたくさんの巨大な仕込桶の間に挟まって、委託者の氏名が記された30kg入りの小さな味噌の仕込桶がいくつか並んでいた。委託加工の最盛期であった昭和39年頃には仕込桶が1万5千本を数えたといわれる。

同社のある敷地の一部は、旧第3岡崎航空隊の東端に当たるが、この圧倒される大きな仕込倉は、旧航空隊の格納庫を再利用したものといわれる。さらにこの仕込倉に隣接する何棟かの仕込倉も旧航空隊の兵舎や倉庫、また近くの旧小学校の校舎を再利用したものといわれるが、その旧小学校校舎を利用した仕込倉の一角には、昔懐かしい小学生用の机が1教室分ほど並べられた多目的室となり、またミニ展示室も設けられ、歴史を感じさせる空間となっている。これらの仕込倉を利用して、さまざまな演奏会や講演会、交流会、ときにはお祭りなどの催しが行われているという。地域で育まれた同



社の社会貢献の場ともなっているようである。

その後最新の醸造設備をざっと拝見した後、筆者にとっては思いがけない事実を知ることとなった。それは、「溜醤油醸造場」と書かれた看板のある部屋での作業であった。ここは同社でも最も歴史ある建物といわれる岡崎市内にあった農業倉庫を移築した土蔵の建物であるが、ここで味噌造りの過程で副製される幻の「ニーラたまり」がいまも製造されていることであった。

本来は、たまり醤油の製造過程で仕込桶からたまりを引き出した後、固くて搾りきれない味噌麹に対して、これを取り出して塩水を混ぜて煮沸して搾った二次製品をニーラたまりと称しているが、ここでは味噌造りの過程で生じる蓋味噌と呼ばれる桶の一番上の味噌とその上たまりを取り出して煮沸し、これを麻袋に小分けして入れ、昔ながらの「フネ」呼ばれる木槽内に積み上げ、自然の重みでたまりを搾り出したものをニーラたまりと呼んでいた。

その珍しい作業が数ヶ月に一度の割合で行われているという。これについてはまた別の機会に報告をと思うが、見学による新たな発見でもあった。



・お知らせ

会計幹事より、年会費納入について

2013年度の年会費の納入をお待ちしています。例会時に現金支払いも出来ますが、担当者が欠席する場合もありますので、手数料が発生しますが下記の郵便振替や銀行口座をご利用ください。

個人の年会費は4,000円です。

[郵便振替] 口座番号：00840-1-174258 口座名：中部産業遺産研究会

[銀行口座] 三菱東京UFJ銀行 鳴海支店 普通預金 口座番号：1531266

口座名：中部産業遺産研究会 会計 市野清志

問い合わせは、市野会計幹事 (ichino82@tcp-ip.or.jp) までお願いします。

会報の編集より

編集委員の募集および、ご意見やご希望などお願いします。

産業遺産に関する情報・短信・文献紹介などお気軽にご投稿ください。投稿は郵送または電子メールでお送りください。写真には必ず撮影者と撮影日時を記載したメモを貼り付けてください。原稿はテキスト形式で作成していただくと編集作業がしやすいので、なるべくテキスト形式をお願いします。原稿送付先：野口英一朗 noguchi.d5@dion.ne.jp (アドレスにご注意ください。@の前にドット。)

電子メールをお持ちの会員で、橋本幹事から電子メールニュースが配信されていない会員は、メールにて、橋本幹事 (hidekih@wine.plala.or.jp) までご連絡ください。すでに着信確認メールを出されている方は、再度送信いただく必要はありません。

中部産業遺産研究会会報 第55号

Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage Vol.55 2014-01

発行：中部産業遺産研究会

発行人：石田正治

発行日：2014年01月01日

編集委員：中住健二郎・橋本英樹・伴公太・野口英一朗

事務局：〒453-0014 名古屋市中村区則武2-34-12 シェルコ-ト則武502 野口英一朗気付

中部産業遺産研究会のホームページは、<http://csih.sakura.ne.jp/>です。

掲載記事の無断転載を禁じます。

Copyright 2008-2014 The Chubu Society For The Industrial Heritage, All rights reserved.